

地域おこし協力隊通信

第17回

茨城会場



東京会場



リポーター…
森山健吾 隊員

皆さんこんにちは!!
17回目の協力隊通信です。今回は、9月5日(土)に行われた移住相談のイベントに出展した話題をお届けします。

「リアル茨城相談会」で地域おこし協力隊」と題した、県内の地域おこし協力隊が主催するイベントが行われました。行政主導のものではなく、協力隊員線、そして移住者目線で、活動地域の良い面・悪い面を含め本音で話し、参加者と交流を図るイベントです。また、今回のイベントは昨今の社会情勢を考慮し、半オンライン形式で実施されました(茨城会場と東京会場をオンラインで結ぶ形式)。

イベント前半が出席協力隊(潮来市、稲敷市、茨城町、鹿嶋市、境町、桜川市、筑西市、常陸大宮市)からの話、後半が希望する協力隊との個別相談会という2部制で実施されました。当日は、都市部に住む幅広い年代の9名がイベントに参加。

「地方への移住で暮らし方がどう変わったのか」「一度、現地を訪ねてみたい」等多くの質問・相談が出てくるなど、内容の濃い相談会になりました。

今回のイベントを通して、参加者の方とはもちろんですが、県内の協力隊とも情報交換・交流ができ、非常に有意義な時間になりました。また、発表資料を作りながら、改めて潮来を客観的に見る機会になったと同時に、移住当初に感じたこと(初心)を思い出す。そんな機会にもなりました。

協力隊にはそれぞれ活動地域があります。今回はその垣根を超えた「広域連携」の取り組みになります。同じ協力隊だからこそ、分かり合えること・協力できることが多くあります。そして、どの協力隊も「茨城が好き」という気持ちがあるからこそ、今回のイベントも開催でき、成功したのではないだろうか。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第56回

北浦でひさびさに対面フィールド実習!

いつもの夏休みであれば、全国の大学生たちが潮来市内にある茨城大水圏環境フィールドステーションに泊まりこみ、北浦で水質や地質、底生生物、魚類などの調査を体験しながら学ぶ実習が人気で、大変な盛り上がりを見せます。しかし、このコロナ禍のなかでは、そういった実習はできませんでした。

そのため今夏の8月中は、完全リモート型実習を試行してきました。北浦の生中継動画を見たり、学生の自宅に水質・生物調査キットを送付して家の近くの水辺で独自調査をしてもらったりして、みなで議論するというやり方です。初の試みでしたが、各地が抱えている水環境問題、しかも住み慣れた家の近くの水辺のことが理解できますので、参加者からは好評でした。

トン・底生生物調査、湖内でのタモ網や投網での魚類採集(写真)、船上での湖沼観測などを体験。ソーシャルディスタンスを保ちつつ、歓声が上がります。学生たちにとって通いでの実習は大変だったはずですが、みな口をそろえて「北浦でフィールド実習ができて本当に良かった」と言ってくれました。実際にそれがあったか、学生間でいつも以上に深い議論が展開されました。水郷の自然の素晴らしさを体感しながら、水環境問題を学ぶ良い機会となりました。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション
加納 光樹

ただ、やはり、実習で大切なのは、実物に触れながら実体験してもらうこと。9月半ばの1週間、十分な3密対策をしたうえで、本学の理学部の学生を対象に、リモートと対面を組み合わせた臨湖実習を行いました。例えば、講義や議論はオンライン会議システムで、実習の時には自宅から電車と徒歩で湖に来てもらい、ウィルス対策をしながら野外実習、といった感じでした。学生たちは湖岸からの水質調査やプランク



湖内で魚類採集!



定置網で採れた外来ナマズ稚魚など



投網で採れたスズキ



投網体験中